

平成31年度 学校自己評価システムシート（県立志木高等学校）

目指す学校像	志木高スピリット（立志・言志・続志）の下、高い志を持ち、自分の夢を実現できる学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習習慣の確立と授業改善により、主体的な学びを推進し、学力を向上させる。 2 志木高スピリットを醸成させ、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を身につけさせる。 3 安心・安全な学校生活を保障し、学校生活に誇りと自信を持たせる。 4 地域とともに歩む、魅力ある高校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	<p><現状> 授業公開週間や教員研修を実施するなど、学校全体で授業改善に取り組む意識が醸成された。平成30年度から生徒用帳「Shikidiary」を活用した学習の自己管理に取り組んでいる。</p> <p><課題> 生徒の主体的な学びを推進し、学力を向上させるためには、学習習慣の確立と、生徒の実態に即した授業の工夫・改善が引き続き必要である。また、学習の自己管理を確立させるためには、生徒自身の意識を高めることが課題である。</p>	<p>・学習を自己管理することにより、学習習慣を確立する。</p> <p>・生徒の実態に即した授業改善により、生徒の主体的な学びを引き出す。</p>	<p>①生徒用帳「Shikidiary」を活用し学習時間や課題、提出物等の「学習」を自己管理させる。(通年) ②手帳の活用を促すため、「手帳通信」を発行し、有効活用する。③新聞が確実に教室に届いたか。教科等での活用が③新聞を活用し「読む」ことや隙間時間を活用することを習慣化させ「読む力」を育成する。(通年) ④研究開発員を中心に、「知識構成型ジグソー法」による授業改善をおこなう。 ⑤ICTを活用した授業改善をおこなう。(6月、11月) ⑥授業アンケートを活用し、授業者と評価者(生徒)双方から授業を改善する。(授業アンケートの実施10月) ⑦授業公開週間において教員相互で授業を見合い、授業改善について協議する。(6月、11月)</p>	<p>①各教科、HR担任による手帳への記入、確認等の指導が徹底できたか。(確認件数の増) ②手帳通信が定期的に発行されたか。(年11回) ③新聞が確実に教室に届いたか。教科等での活用が増えたか。(前年比:取り忘れ数減、活用報告数増) ④教科会で知識構成型ジグソー法による授業について研究協議を実施できたか。(学期毎年3回) ⑤ICT活用研修が実施できたか。(年2回以上) ⑥授業アンケートで生徒が興味を持つように教材や話題、授業形態などが工夫されているとの回答が増えたか。(前年比) ⑦授業改善をテーマとした研究協議が実施されたか。(年2回)</p>	<p>・手帳に関するアンケートを実施し、活用状況を把握し、教職員間で確認等の指導件数を増加させた。 ・手帳通信を定期的に発行(月1回)し、手帳の有効活用例を示し、生徒自身の活用意欲を高めた。 ・新聞を活用した授業等の取組みが増加し「読む力」の育成に学校全体で取組んだ。 ・教科会を中心に、知識構成型ジグソー法をはじめとした「アクティブラーニング」を積極的に取り入れた授業改善に取組み、各学期ごとに研究授業を実施した。 ・ICT活用をテーマに職員研修を実施した。 ・学校評価懇話会では、「授業で力をつけるには」をテーマに授業者と生徒と一緒に協議し、双方から授業改善につなげた。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・生徒自身の手帳活用意欲が高まり授業等での活用が定着してきた。次年度は、手帳のポートフォリオ効果を活用し、学習習慣を定着させ、学力向上につなげるのが課題である。 「読む力」の育成には、引き続き「読む」ことを習慣づけ、生徒自身の意識を高める必要がある。生徒会常任委員会の中で生徒自身の取組みとして位置づけ取組むことが課題である。 ・学校評価懇話会で教員、生徒、保護者等と一緒に授業について考えることは双方の意識を向上させ授業改善につながった。次年度は、テーマや形態を工夫し、継続して実施することが課題である。「知識構成型ジグソー法」による授業については、校内で資料等を蓄積し共有するとともに教科間の横断的な学びの促進方法として研究する。</p>
2	<p><現状> 進路意識を高めるため、系統的な進路指導や手帳を活用したセルフマネジメント力の育成に取り組んでいるが、夢の実現に向けた目的意識を持って学校生活を送っていない生徒もいる。</p> <p><課題> 生徒の進路実現には、保護者に向けた進路情報の発信の機会を増やし、更なる協働体制を築くことが課題である。また、進路意識を高めセルフマネジメント力を育成するためには生徒用帳の更なる活用が必要である。</p>	<p>・進路意識を高め、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を育成する。</p> <p>・保護者の進路意識を高め、家庭と連携した進路指導をおこなう。</p>	<p>①志木高スピリット(立志・言志・続志)を掲示し、意識させることにより日々の学習に目的意識を持たせる。 ②模試や補講により、入試レベルを把握させ、早期から計画的な準備・対策をさせる。 ③年度当初に比べ家庭学習時間の定着により進路実現に必要な学力を向上させる。 ④保護者向けに進路情報を提供し、保護者の進路意識を高める。 ⑤生徒用帳「Shikidiary」を三者面談に活用し、目標を明確化し、「保護者・生徒・学校」の協働により進路実現をサポートする。</p>	<p>①志木高スピリットを自覚している生徒が増えたか。(生徒アンケート前期、後期比) ②模試の参加人数が増えたか(前年比)、補講開講数および参加者が増えたか(前年比) ③年度当初に比べ家庭学習時間が増えたか。(生徒アンケート前期、後期比) ④保護者の学校行事等への参加が増えたか(前年比)保護者進路説明会を実施できたか(年2回以上) 進路情報の発信(HP、スマート連絡帳年5回以上進路通信年2回) ⑤全クラスにおいて、三者面談で手帳を活用し、目標が明確化できたか。</p>	<p>・志木高スピリットを掲示し、日頃から意識させ、学習に目的意識をもたせた。生徒アンケートでは前期(56.9%)に比べ後期(59.1%)と数値的に成果は確認できなかった。 ・模試の参加人数(160→171名)補講開講数(29→34)補講参加人数(107→171)模試の受験者は減少した。 ・1時間以上家庭学習をしていると回答した割合は前期(20.1%)後期(16.4%) ・保護者向け進路講演会をおこない、進路情報を提供した。また、渉外部と連携し、進路見学会を実施するなど保護者の進路意識向上に取り組んだが、スマート連絡帳による情報発信は実現できなかった。 ・手帳を活用した三者面談を実施したが、担任により取組状況に差が生じた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・総合的な探究の時間におけるキャリア探究を充実させ、一人一人の目標設定とセルフマネジメントを支援することが課題である。 ・進路実現に必要な力を客観的に把握させ、生徒自身がPDCAサイクルの確立により学力を向上させることが課題である。また「家庭学習」の定義を明確にし、家庭に限らず学校外での学習状況を把握し、宿題や補習の量や内容を工夫し進路実現に必要な学力を向上させる必要がある。 ・進路情報の発信の機会を増やし更なる協働体制を築くことが課題である。スマート連絡帳等での情報発信の内容を充実させ回数を増やすことが課題である。 ・担任間の差をなくし、「保護者・生徒・学校」をつなぐツールとして手帳を活用することが課題である。</p>
3	<p><現状> 注意喚起や見守り指導により、落ち着いた学校生活は確保できているが、SNSによるトラブルや交通事故等の未然防止には至っていない。</p> <p><課題> 学校内外での危機管理能力を育成し、トラブルを未然に防ぐことが課題である。また、学校生活に誇りを持たせるためには、生徒に自己有用感を持たせるとともに、学校行事の充実や部活動定着率の向上が必要である。</p>	<p>・事故防止と良好な人間関係づくりを支援し、安心・安全な学校づくりを進める。</p> <p>・生徒の自主的な取り組みを支援し、学校生活に自信を持たせる。</p>	<p>①新入生を対象とした交通安全教育を実施し、交通事故を防止する。(4月) ②PTA、地域と連携した校外交通安全指導を実施し交通安全マナーを向上させる。 ③携帯・スマホマナー教室の実施やポスターの掲示等によりSNSによるトラブルを防止を啓発する。 ④スクールカウンセラーを活用し、教育相談を充実させ全職員の見守り指導をおこなう。 ⑤自他を尊重する心を育む人権感覚育成プログラムやオリパラ教育を実施する。 ⑥地域交流活動の運営に、生徒会を中心に参画させ、生徒の自己有用感を高める。 ⑦学校行事や部活動で成功体験を積み、学校への帰属意識を高める。 ⑧校長表彰により、他の表彰に該当しない日頃の頑張りを褒める。</p>	<p>①新入生対象交通安全教室が事故防止につながったか。(5、6月の事故件数0件) ②校外交通安全指導が実施できたか。(年2回)年間を通して生徒の重大交通事故0件が達成できたか ③携帯・スマホマナー教室を実施し、啓発リーフレット等を活用し指導したが、サイバートロールから危険性を指摘された件数はほぼ横ばいだった。 ④スクールカウンセラーによるカウンセリングを定期的におこない、月1回を目途に特別支援委員会を開き、校内で情報を共有した。 ⑤「自己尊重の感情」を育むためのプログラムとパラリンピックを通して障害者の人権を考える参加型の講演会を実施した。 ⑥学校地域WIN-WINプロジェクトとして「志木高倶楽部プロジェクト」に取組み、参加者は目標値の半数程度に留まったが、生徒の活躍の場が広がった。 ⑦部活動定着率は昨年度67.7%から55.5%と低下してしまっ。学校行事に意欲的であると回答した生徒は80.1%から79.2%と大きな変化はみられなかった。 ⑧各クラスからの推薦により、校長表彰を実施し日頃の頑張りを称えた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>・交通事故の防止と交通マナーの向上には、継続した取組みが必要である。次年度は地域と連携した交通安全指導や生徒の主体的な取組みを取り入れ、粘り強く指導することが課題である。 ・生徒によるルールづくりなど、生徒の自己指導力を高め、SNSを適切に活用する力を育てることが課題である。 ・教育相談とカウンセラーによるカウンセリングを定期的におこない、相談したいときに相談できる環境を整えることが課題である。 ・「探究プログラム」として学校全体の教育活動と関連づけ、人権感覚を磨くことが課題である。また、学校地域WIN-WINプロジェクトで広がった生徒の活躍の場を活用し、参画意欲を高め、経験を自信につなげるのが課題である。 ・生徒会を中心に、生徒自身の企画運営により学校行事をおこなう事が課題である。また、部長会議の活性化や部活動間交流会等により、部員同士のつながりを深めることが課題である。</p>	
4	<p><現状> ホームページをリニューアルし、情報発信を積極的におこなっている。地域に根差した学校として、地域貢献活動を積極的にこなしている。</p> <p><課題> 地域とともに歩む学校となるためには、本校の教育力を地域に発揮し、開かれた教育課程を実現する必要がある。平成30年度に立ち上げた「志木高将来構想会議」を進め、平成31年度中にビジョンを「見える化」することが課題である。</p>	<p>・志木高校を中心とした地域交流の輪を広げ本校の教育力を地域に発揮する。</p> <p>・魅力ある志木高校のビジョンを「見える化」する。</p>	<p>①本校を会場とした地域交流活動「志木高倶楽部プロジェクト」を実施する。 ②HP更新を全職員がおこない、学校全体で本校の教育活動や魅力が発信する。 ③全職員が参画する「志木高将来構想会議」において、中長期的なビジョンを共有し、「志木高未来予想図」にまとめる。 ④平成34年度入学生の教育課程編成においてカリキュラム・マネジメントを確立させる。 ⑤教育課程委員会を中心に生徒の課題に即した「総合的な探究の時間」の内容を検討する。</p>	<p>①「志木校倶楽部プロジェクト」が毎月1回以上実施できたか。参加者の意欲に変化がみられたか。(参加者アンケートの参加前、参加後比較) ②「こころざし日誌」のページを全職員で更新できたか。(更新数増、アクセス数増) ③「志木高将来構想会議」が実施されたか。(年3回以上)、「志木高未来予想図」が完成したか。 ④ワーキングチームによる検討内容を共有できたか。(検討回3回以上)平成34年度入学生の教育課程編成に向けた教育課程委員会が定期的実施されたか。 ⑤ワーキングチームを中心に、総合的な探究の時間の3年間の学習プログラムが作成されたか。</p>	<p>・毎月1回以上、地域向け講座や地域交流活動を実施し、回を追うごとに参加者が増えた。 ・全職員でHPを更新し、「こころざし日誌」の更新数は増えなかったが、部活動の更新が増えた。 ・志木高将来会議を実施し、作成過程からビジョンを共有し、未来予想図としてまとめた。 ・ワーキングチームによる検討を教育課程委員会と共有した。また、教育課程編成に向けた委員会を定期的に実施した。 ・総合的な探究の時間ワーキングチームを中心に3年間の学習プログラムを「探究プログラム」としてまとめた。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・1年間のプログラムを通して、地域と協働で取組む流れができ、地域に開かれた教育課程の足がかりが完成した。今後は、「生徒が地域で成長するプロジェクト」として、今年度の取組みを継続し、発展させることが課題である。 ・HPやスマート連絡帳のバランスを考え効果的に魅力を発信することが課題である。また、志木高倶楽部プロジェクトを機に強まった地域とのつながりを活かし地域に根差した魅力ある学校づくりに取組むことが課題である。 ・「探究プログラム」を本校の教育活動の特徴の一つとして、全職員で魅力あるプログラムにすることが課題である。</p>

学校関係者評価	実施日 令和2年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・手帳の活用については、生徒の意見を聞いてみるのが大切である。 ・手帳を利用する立場(生徒)としては、メモはスマホを活用している。テストのふり返りなどはスマホではできない事だと思ふ。 ・方策の評価指標に数値目標を掲げているので、達成状況で数値結果を入れた方がよい。 ④研究協議会一各学期1回実施 ⑤ICT活用研修年2回6、11月実施 ⑥授業改善をテーマとした研究協議一年2回6、11月に実施 ・学校評価懇話会で授業改善をテーマに教員、生徒、保護者が一緒に考えることが授業改善につながったことが大変良かった。来年度以降も是非継続して欲しい。</p> <p>・達成状況に結果数値が示されており、評価として妥当。次年度への課題を検討する際、理由や原因を更に分析し数値目標を示すことが必要だと思う。 ・保護者向け進路情報は学校HPに掲載し、周知して欲しい。進路実現に必要な力の育成について、シラバスとの整合性が欲しい。 ・入学当初に比べて学年があがるごとに進路意識が高まったと思う。 ・目標とした「重大交通事故0」を達成できたことは評価できる。今後も継続した取組みを期待している。 ・スマートフォンのマナー向上等は家庭との連携が不可欠。家庭でも子供とよく話し合う必要を感じる。 ・生徒会に関わるようになって、学校行事について深く考えるようになった。生徒一人一人が自分の事として学校行事を考えることが必要だと思う。 ・学校行事を楽しめるものとするのは生徒次第だと思う。色々な制限の中で工夫して欲しい。 ・地域で生徒が活躍する場が広がっている。これからは是非継続して取り組んで欲しい。 ・生徒一人一人の頑張りに目を向ける校長表彰は大変良い取り組みだと思う。今後も継続を期待する。</p> <p>・目標とした毎月1回以上の地域向け講座や地域交流活動の実施を達成するに留まらず、参加者を増やしたことが高く評価できる。 ・こうした地道な地域交流活動こそ、地域に根差した学校づくりにつながる。来年度以降の更なる広がりを期待している。 ・探究プログラムなど工夫ある取組みを志木高校の魅力としてPRして欲しい。</p>